

小脳症状も見られた。CT, MRI にて cystic lesion の再増大が認められ、再手術が行われた。初回手術時摘出標本では、表層が単層の扁平～立方状の細胞で被われ、それと共に杯細胞が集簇している像も認めた。再手術時摘出標本では、上記に加えて消化管上皮に類似した腺管構造も見られた。また手術後の髄液所見で CA19-9 が 498 単位と高値を示し、摘出標本の免疫染色においても CA19-9 陽性であった。

## 2A-101) 2 期的手術により全摘出し得た側脳室三角部巨大髄膜腫の 1 例

橋本 正明・得田 和彦 (公立能登総合病院) 脳神経外科

右側脳室三角部に発生した径 7 cm の巨大髄膜腫を 2 期的手術により全摘出し得た。手術の要点をビデオにて供覧する。症例は 42 歳男性。平成 4 年 3 月頃より視野障害を自覚、4 月 7 日当科受診。集中力の低下、左同名半盲、軽度左片麻痺、構成失行を認めた。MRI では右側脳室三角部を充満する直径 7 cm の巨大な腫瘍を認めた。DSA では Ant. chor. art. および Post. chor. art. より栄養される腫瘍陰影を認めた。4 月 27 日 Rt temporo-parietal approach にて主に Ant. chor. art. にて栄養される側脳室三角部底部の腫瘍を脈絡叢とともに摘出した。術後 MRI では腫瘍は約 80% 摘出されていた。組織診断は fibroblastic meningioma であった。12 月 1 日 Rt parieto-occipital approach にて全摘出術を行った。側脳室体部では特に脳室系静脈、腫瘍からの流出静脈との区別に留意した。視床からの腫瘍の剝離の際には特に慎重な操作を要した。新たな神経症状無く独歩退院した。巨大側脳室三角部髄膜腫全摘術の留意点に関し報告する。

## 2A-102) 延髄、上位頸髄の腹側に進展した舌下神経鞘腫の全摘例

杉本 信志・蝶野 吉美 (美唄労災病院) 脳神経外科  
磯部 正則 (札幌麻生脳神経外科病院)  
伊藤 文生 (札幌麻生脳神経外科病院)

下位脳神経症状をきたすことなく全摘しえた舌下神経鞘腫の 1 例を経験したので、ビデオにて供覧する。

症例：38 歳女性。頭痛を訴え来院。うっ血乳頭、舌右半側の萎縮を認めた。画像検査では延髄、上位頸髄の右側～腹側に存在する嚢胞性髄外腫瘍、右舌下神経管の拡

大、脳室拡大などを認め、舌下神経鞘腫および閉塞性水頭症と診断した。

手術：体位は半腹臥 park bench position とし、後頭～頸部正中に？字状皮切をおき、posterolateral suboccipital craniectomy および C1 hemilaminectomy を行った。舌下神経は切断したが第 9, 10, 11 脳神経、頸髄神経根は全て温存し、部分的に CUSA を使用し腫瘍を全摘した。術後、脳室サイズは正常化し、あらたに右外転神経麻痺が出現したが 6 カ月後に完治した。本アプローチの有用性を強調したい。

## 2A-103) Transpetrosal approach による posterior pyramid meningioma 全摘例

遠藤 俊郎・津村貢太郎 (富山医科薬科大学) 脳神経外科  
増田 良一・赤井 卓也 (富山医科薬科大学) 脳神経外科  
西嘉美知春・高久 晃 (富山医科薬科大学) 脳神経外科

内耳道後方に発生した posterior pyramid meningioma に対し、presigmoid transtentorial approach と suboccipital approach の併用により全摘出を行った 1 例を経験した。

症例は左小脳症状と精神症状を主訴とする 62 才女性。左小脳橋角部より小脳上外側に位置する長径 5 cm の腫瘍を認めた。手術は半三器官外側の錐体骨を硬膜外で切除し、硬膜切開・上錐体静脈洞切断の後、subtemporal approach によりテント切開を行った。これらの操作の間に、腫瘍の硬膜附着部が露出し、容易に剝離処置が行われた。その後テント上下よりの approach により、脳圧排をほとんど行うことなく腫瘍を全摘した。硬膜欠損部および錐体骨内側面は筋膜で閉鎖補填した。

ビデオにより症例を供覧するとともに、本手術法の有用性および選択の適否につき考察する。

## 2A-104) 大きな脳腫瘍に対する術中塞栓術の技術的な検討

畑中 光昭・中村 公明 (十和田市立中央病院脳神経外科)  
社本 博 (東北大学脳神経外科)

大きな、血管に富む脳腫瘍の術中の出血量、侵襲を少なくし、時間短縮を目的として術中人工塞栓術を発表してきたが、塞栓子としてフィブリン糊が入手し易く、評価も高かった。今回は複数の feeding artery を持つ meningioma に対する最近の手術例を通して塞栓法を中心に検討した。症例は 74 才の女性で腫瘍は径が約 8 cm